

# 令和5年度 堺市 英語教育改善プラン

## 目標

自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な資質・能力の獲得  
 ※「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う」の肯定率を、小学校6年生で80%以上とする。

### 1. 現状

改善が進んだ点

- ①話すこと（やりとり、発表）を評価するパフォーマンステストの実施状況  
R3:95.7%→R4:98.4%
- ②授業における児童の英語による言語活動50%以上実施した学校の割合  
R3:82.2%→R4:86.4%
- ③英語の授業におけるICTの活用<発話発音の録画録音>  
R3:17.4%→R4:38.0%  
<キーボードでの入力>  
R3:44.6%→R4:70.7%

未だ改善が必要な点

- ①授業における児童の英語による言語活動50%以上  
堺:86.4% 全国:91.9%
- ②「CAN-DORリスト」形式による学習到達度目標
  - ・設定 堺:63.0% 全国78.8%
  - ・公表 堺:17.4% 全国48.4%
  - ・把握 堺:46.7% 全国70.0%
- ③英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合（堺市教育委員会調べ）  
R3:82.5%→R4:77.6%
- ④新規採用者（令和5年度）に占める一定の英語力を有する者の人数  
目標値:40% 達成値:14.7%

### 2. 分析

- ①②言語活動や評価に関する研修の実施により、各校において指導と評価の一体化をめざした取組が推進されている。ただ、「言語活動の実施」と「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う」の相関係数は0.15でありほとんど相関がない状況である。
- ③児童用パソコンの効果的な活用に取り組む学校が増え、話す、書くの領域において活用している。

- ①多くの学校で取組が進む一方、一部の学校では言語活動の実施が不十分な現状がある。
- ②研究会での発信や設定方法の周知により、設定する学校は一定数あるが、公表や達成状況の把握に至っていない学校も多く、全国の水準に達していない。
- ③英語を用いたコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合が昨年度と比較して低下している。各校における言語活動の充実が必要。
- ④採用者数の大幅な増加や求める資質・能力の多様化により、目標を下回った。

### 3. 施策・事業

①②①②③**外国語活動・外国語科指導者研修の実施**  
 各学校1名の参加者を対象とし、言語活動を通じた指導の在り方等についての研修を年3回程度開催する。講義やワークショップを通して、言語活動を意識した指導計画を立て指導ができるようになることを目的とする。CAN-DORリストを活用した取組については、研修を通じて活用方法を例示し、各校での公表、達成状況の把握につなげる。

①②①②③**「英語指導研修」「英語推進研修」の充実**  
 専科教員や小学校において英語教育を推進する教員を対象とし、各校の取組内容を共有する協議会や研修を年5回以上実施する。校内研修の講師を務める者もいることから、授業を視察し授業改善に向けた協議等を行う。

①②③①②③**教員同士の情報共有の場の設定**  
 協議会等に加え、専科教員同士の授業参観やTeamsを活用した情報共有の場を設定することで、ICTを活用した取組やCAN-DORリストの活用事例、よりよい指導のあり方についての情報を積極的に共有できるようにする。

④**一定の英語力を有する者の採用に向けた計画**  
 採用試験において、「『小学校の免許に加えて、中学校英語免許を有していること』を資格要件とした『小学校外国語推進』枠の設置」、「小学校での、英語検定等有資格者に対する加点の対象拡大」等により、一定の英語力を有する者の確保を図る。

# 令和5年度 堺市 英語教育改善プラン

## 目標

### 実際のコミュニケーションにおいて活用できる実践的な資質・能力の育成

※中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合を65%以上とする

## 1. 現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数  
R3:53.0%  
→R4:59.2%
- ②授業における生徒の英語による言語活動の割合50%以上  
R3:62.1%  
→R4:65.1%

未だ改善が必要な点

- ①授業における生徒の英語による言語活動の割合50%以上  
堺:65.1% 全国74.5%
- ②授業における教員の英語使用状況  
R3:59.8%→R4:55.8%  
全国74.4%
- ③スピーキング及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施  
R3:84.5%→R4:81.4%  
全国90.1%

## 2. 分析

- ①きめ細かな指導や授業におけるコミュニケーション機会の充実を図ったことで、生徒の英語力の向上につながった。また、生徒の英語力と教員の英語力の相関係数は0.26でやや相関があり、教員の英語力の向上がさらなる生徒の英語力の向上につながると考えられる。
- ②生徒の英語による言語活動の向上については、研修等を通じて各学校に伝えてきたことで、授業改善が進んだ結果と考えられる。
- ①授業における言語活動の割合については、1年60.5%（全国58.4%）2年53.5%（全国58.9%）3年48.8%（全国56.6%）と、学年が上がるにつれて低下しており、全国との差も大きくなっている。
- ②教員の英語の使用状況については、教員の英語力との相関係数が0.28とやや相関がある。教員の英語力もR3:30.5→R4:28.6と低下しており、教員の英語力の向上が必要と考える。
- ③パフォーマンステストの実施状況についてはR3から低下しており、全国との差も広がっていることから、パフォーマンステストの質的向上をめざした研修の実施が必要である。

## 3. 施策・事業

- ①②①②③「英語指導力向上研修」の実施と「研究校による公開授業」の実施  
学習指導要領が求める学びの実現に向けた授業改善やパフォーマンステストの質の充実を目的に、中・高等学校の英語科教員を対象として、年5回程度の研修を実施する。また研究校2校による公開授業及び研究発表を実施し、取組内容や成果について、中学校を中心に周知し、各校の授業改善につなげる。
- ①②「先導的なオンライン研修実証事業」や「英語資格・検定試験の特別受験制度」の積極的な活用  
教員の英語力を高めていくために研修等を通じて教員の英語力の必要性を周知するとともに国の事業への積極的な参加を呼びかける。
- ①②授業改善につなげる「分析のしおり」の作成  
教育センター、がつまづきの多かった各種調査の設問をもとに、系統的な指導の具体例を示した「分析のしおり」を作成し、各校における指導の充実を図る。「分析のしおり」は関連する単元の指導者用の教科書にはさむなど、指導計画時に見えるようにすることを想定して作成している。

# 令和5年度 堺市 英語教育改善プラン

## 目標

的確な理解や適切な表現による実践的なコミュニケーションを図るための  
資質・能力を育成する

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①CAN-DOリストの達成目標の設定・公表・達成状況の把握においてR3より100%維持できている。
- ②パフォーマンステストにおいてスピーキング及びライティングの両方実施が100%である。
- ③求められる英語力を有する英語担当教員の割合がR3 33%→R4 50%に改善。

#### 未だ改善が必要な点

- ①生徒の授業における英語の言語活動時間の割合がR3 100%→R4 81%に減少。
- ②英語担当教員の授業における英語使用状況がR3 100%→R4 66%に減少。

### 2. 分析

①②③これまでの取組の継続による効果であると考えられる。また、授業改善により、生徒の英語の学習に対する意識の変容が見られた。

①②教員や生徒の実態により、授業での言語活動にかかる時間や英語の使用状況が異なっていることが考えられる。教科会等の実施による共通理解や段階的な改善計画が必要と考えられる。

### 3. 施策・事業

#### ①学習指導要領をもとにしたCAN-DOリストの活用と見直しの実施

各中学校においてめざす英語力を指導者と生徒が共有し、それに向けた指導と達成状況の把握を行っている。また、必要に応じたCAN-DOリストの見直しも行う。

#### ②①「英語指導力向上研修」の実施

学習指導要領が求める学びの実現に向けた授業改善やパフォーマンステストの質の充実を目的に、中・高等学校の英語科教員を対象として、年5回程度の研修を実施し、情報交換も行う。

#### ③②「先導的なオンライン研修実証事業」や「英語資格・検定試験の特別受験制度」の積極的な活用

教員の英語力を高めていくために市教委が研修等を通じて教員の英語力の必要性を周知するとともに国の事業への積極的な参加を呼びかける。

#### ①ALTの効果的な活用を含めた即興性を重視したやり取りの活動の実施

授業において、生徒のコミュニケーション能力の育成を目的に、ALTも活用しながらグループでのやり取りや即興性を重視した帯活動を行う。